

研究タイトル：

バイリンガルの単語認識に関する研究

氏名：	ワーナー川原 ジェシー / WANNER KAWAHARA Jessie	E-mail：	j-kawahara@sendai-nct.ac.jp
職名：	助教	学位：	博士(学術)
所属学会・協会：	全国高等専門学校英語教育学会		
研究分野：	言語学		
キーワード：	心内辞書,バイリンガル,マスク下のプライミング実験,日英バイリンガルの視覚的単語認識		
技術相談 提供可能技術：	・マスク下のプライミング実験		



研究内容：

[実験手法]

心内辞書には単語の音韻、形体、意味等が表象されているとされる。そして、心内辞書の表象と構造について調査する一つの手法として、マスク下のプライミング実験(Forster & Davis, 1984)が挙げられる。例えば、マスク下のプライムを用いた語彙判断の実験では、被験者にターゲット刺激(e.g., FALL, POVE)を提示し、それが実在する単語か否か判断させる。このターゲット刺激の提示に先行して、マスク刺激(i.e., #####)の提示後に、ターゲットと関連のあるプライム刺激(e.g., fell), またはコントロール刺激(e.g., bank)を40~60ミリ秒ほど提示する。関連プライムの提示はコントロールと比較して、ターゲットの語彙判断に要する時間(反応時間)を短くしたり、長くしたりすることがあるが、これはプライミング効果と呼ばれている。そして、プライミング効果が観測されることは、プライムとターゲットの表象間に繋がりがあることを意味すると考えられている。

[研究課題]

プライミング実験で得られる反応時間のパターンをもとに
日本語を第一言語とし、英語を第二言語とする者(日英バイリンガル)と
英語を第一言語とする者(英語モノリンガル)の心内辞書の類似点と相違点について研究している。

特に日英バイリンガルの英語動詞の過去ー現在形間の形態的なつながりについて研究してきた。

[参考文献]

Forster, K. L. & Davis, C. (1984). Repetition priming and frequency attenuation in lexical access. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, 10(4), 680-698. doi:10.1037/0278-7393.10.4.680

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	